

嵐山線

阪急京都線を語る上で、嵐山線は避けて通れない。

路線長も4,1kmと盲腸線より長く途中に、松尾大社もあり幹線路線にしようとしたことが伺い取れます。

京阪電鉄は、現在の淀川左岸の路線は、都市間連絡のためにカーブが多く、時間がかかっていたので、子会社の新京阪電鉄を設立して、右岸に大阪～京都間に当時完成したばかりの阪急神戸線にならって、直線路線計画をし、設立された新会社「新京阪電鉄」は、当初、集客の見込める淡路～嵐山間を計画し、途中に「松尾大社」もあり、最初から嵐山へは複線で工事がなされた。したがって、嵐山駅は、ターミナル駅として、6面5線のホームとともに立派な駅舎を完成させてデビューした。

その後、戦時体制が強化される中、嵐山～桂間は不要不急路線として単線化され、レール類は供出させられてしまった。したがって今でも、開業当時のママに橋梁も道床(路線)も鉄柱も複線路線の状態が残されています。嵐山駅舎はもとのママであるが、ホームだけは3面2線に縮小されている。箕面線同様に、開業当時は幹線であったものが、盲腸線になった悲劇の路線です。

同時に、戦時体制下の経営統合により、新京阪電鉄は阪神急行と合併させられ、新京阪神急行(現在の阪急の前身)ができ、戦後は阪急に統合され、新京阪電鉄は、親会社の京阪電鉄からきりはなされてしまったのである。

嵐山駅

ランタン照明に趣がある。
(今では、広くてガラーンとしている)



敷地も橋梁も鉄塔も
複線時代のママ残っている。

